

科目名	酸化ストレスの生命科学		英文表記	Oxidative Stress for Life Science		平成24年3月16日		
科目コード	6420							
教員名:平良淳誠 技術職員名:						作成		
対象学科/専攻コース			学年	必・選	履修・学修	単位数	授業形態	授業期間
創造システム工学専攻・生物資源工学コース			専1	選択	学修	2単位	講義	後期
科目目標	酸化ストレスと生理機構を基軸とした、生命との関わりを理解することを目標とする。							
総合評価	レポート(30%)と定期試験(70%)の結果の総合評価で、理解度の到達度を評価する。総合評価が60%以上を合格とする。							
達成度目標と評価方法	科目達成度目標(対応するJABEE教育目標)				達成度目標の評価方法			
	①	①活性酸素(フリーラジカル)と窒素ラジカルの化学的性質と生理作用の基本、複合的な専門知識及び専門技術を学ぶ(A-3)。			⇒	①活性酸素(フリーラジカル)、窒素ラジカルの化学を理解していることを、記述式の試験で行い評価する。		
	②	②活性酸素(フリーラジカル)、窒素ラジカルによる酸化ストレスの作用を、からだの生理機構を基軸にして学び、生命との関わりを理解し、複合的な専門知識と専門技術を学			⇒	②酸化ストレスの作用とからだの生理機構及び生命との関わりを理解していることを記述式の試験で行い評価する。		
	③	③酸化ストレスに関連する学術誌等に記載している複合的な専門知識と専門技術を理解できるようにする(B-1)。			⇒	③ ①と②の知識を踏まえて、学術誌から研究法などの情報収集ができているかを、パワーポイントによるプレゼンテーションと提出レポートの総合評価で行う。		
本科・専攻科教育目標	1	2	3	4	JABEEプログラム名称	生物資源工学		
	○		◎		JABEEプログラム教育目標	A-3, B-1		
授業概要、方針、履修上の注意	<p>1.本授業では生体内に様々な影響を及ぼす活性酸素及び窒素ラジカルの生理作用の基本を学ぶことができる。</p> <p>2.酸化ストレスと生命及び疾患との関わりを理解できるようになる。</p> <p>3.毎回講義形式で進め、項目毎に課題を設定して問題解決能力を養成する。</p>							
教科書・教材	<p>教材:教員自作プリント、パワーポイントなどプレゼンテーション資料など</p> <p>参考図書:酸化ストレス・レッドックスの生化学(共立出版)、NOの生理作用と疾患(羊土社)、酸化ストレスから身体をまもる(岩波書店)</p> <p>参考図書を探す場合のキーワード: 酸化ストレス、活性酸素、フリーラジカル、生活習慣病、老化、糖尿病</p>							
授 業 計 画								
週	授 業 項 目	時間	授 業 内 容				自 学 自 習 (予 習・復 習) 内 容	
1	ガイダンス	2	本科目の概要と、到達目標を把握する。				活性酸素とは	
2	活性酸素(フリーラジカル)とは	2	活性酸素の生成及び生理機構を理解する。				活性酸素の役割	
3	一酸化窒素ラジカルとは	2	一酸化窒素ラジカルの生成及び生理機構を理解する。				一酸化窒素ラジカ	
4	酸化ストレスとレッドックス	2	酸化ストレスとレッドックス及び制御酵素を理解する。				酸化ストレスとレッドックス	
5	ミトコンドリアの活性酸素	2	ミトコンドリアの機構と活性酸素生成機構を学ぶ。				ミトコンドリアの機構	
6	酸化ストレスと病態I	2	アポトーシスと酸化ストレスとの関連を学ぶ。				アポトーシス	
7	酸化ストレスと病態II	2	炎症と酸化ストレスの生理作用を学ぶ。				炎症について	
8	酸化ストレスと病態III	2	酸化ストレスと生活習慣病との関連を理解する。				癌について	
9	前期中間試験	2						
10	酸化ストレスと予防剤I	2	酸化ストレスの予防剤に関する理解を深める。				酸化ストレスの予防	
11	酸化ストレスと予防剤II	2	酸化ストレスの予防剤に関する理解を文献で深める。				学術誌の講読	
12	酸化ストレスと疾患及び予防剤	2	酸化ストレスに関する文献を理解する。				学術誌の検索	
13	酸化ストレスと疾患及び予防剤	2	酸化ストレスに関する文献をまとめる。				学術誌のまとめ	
14	酸化ストレスと疾患及び予防剤	2	上述の文献をまとめ、討論の実施により理解を深める。				学術誌の発表	
15	総括	2	本授業で学んだことの整理を行い、理解の確認をする。				知識のまとめ	
期末	期末試験	[2]						

16		2		
17		2		
18		2		
19		2		
20		2		
21		2		
22		2		
23		2		
24		2		
25		2		
26		2		
27		2		
28		2		
29		2		
30		2		
期末	期末試験	[2]		
学習時間合計		60	実時間	45
自学自習(予習・復習)内容(学修単位における自学自習時間の保証)				標準的所用時間(試行)
①	レポート(その週の講義内容に沿った内容について演習とレポートを課す。)			3時間x6回
②	学術論文を購読し発表資料を作成する。			3時間x12回
③	発表PPTの作成			6時間
備考欄				
この科目はJABEE対応科目である。資源生物機能形態学及び生物資源利用学Iは関連科目である。				

学習時間は、実時間ではなく単位時間で記入する。(45分=1、90分=2)

|